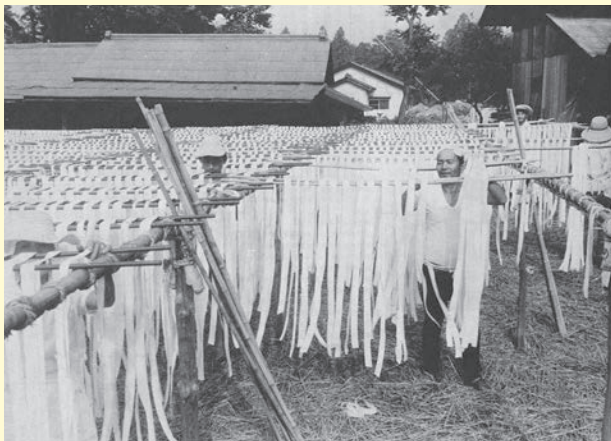


（「広報うつのみや」（昭和25年4月1日発刊）の中から、昭和を感じさせる懐かしい記事をご紹介します。）



（一口メモ） 市内のかんぴょうの栽培は、昭和53年が最も生産が盛んでした。それ以降は、生産者の高齢化、安価な輸入品の増加、食生活環境の変化による消費の低迷などにより、かんぴょう農家の数は徐々に減少し、平成24年4月現在で、27戸になっています。

昭和の記憶

～あんトキの記事から～



最盛期のかんぴょう作り

（広報うつのみや昭和53年7月20日号）

梅雨の上がったここ雀宮・茂原地区では、一家総動員でかんぴょう作りに大わらわです。作付面積は一戸あたり平均40アールから50アールとか。減反政策の一環として最近特に増えたそうです。

夕方、夕顔の花が咲くとおしべの花粉をめしべに受粉させ15日から20日ぐらいいおく大きな実になります。それを朝早く取り、機械でむき1日干すと出来上がり。

庭いっぱい干されたかんぴょうが時折吹く風に白い姿を踊らせていました（原文のまま）。

暮らしと交通のいい関係

L R T

オープンハウスなどのLRTの市民説明で寄せられた主な質問・疑問のうち、今回は、LRTと他の交通手段との乗り継ぎについて紹介します。

質問 LRTの導入によって、バスとの乗り継ぎが必要となり、不便になるのでは？

答え LRTやバスの運行本数を確保することや運行ダイヤを工夫することで、少ない待ち時間で乗り継ぐことができますようにします。また、円滑に乗り継ぐための施設整備やICカードの導入により、乗り継ぎ負担の軽減を図ります。

■運行本数の確保

LRTは、高い輸送力や定時性、速達性などの機能を備えており、鉄道やバス、地域内交通などの交通手段と円滑に結節することで、みんなが便利に移動しやすくなります。

LRTの導入により、一部のバスでは乗り継ぎが必要となりますが、導入と合わせて、バス路線の再編や新設などに取り組むことで、今よりも公共交通ネットワーク全体の充実を図ります。

また、LRTの運行は、優先整備区間（JR宇都宮駅東口～宇都宮テクノポリスセンター地区）においては、朝夕のピーク時は約6分間隔、日中のオフピーク時は約10分間隔を検討しています。

こうした取り組みにより、LRTやバスの1時間当たりの運行本数を確保するとともに、更には、運行ダイヤを工夫することで、少ない待ち時間で乗り継ぐことができるようになります。

■乗り継ぎ負担の軽減

LRTと乗り継ぐ交通手段には、鉄道やバス、タクシー、自動車、自転車などがあり、乗り継ぎを便利にするため、道路沿いの空間を活用し、LRTの停留場周辺に駐輪場などを整備するほか、鉄道やバスとの結節が想定される場所（交通結節点）については、バスやタクシーなどの乗降場、駐車場などを設けたトランジットセンターを整備し、乗り継ぎ負担の軽減を図ります。

また、LRTやバスなどにおいて、共通で利用できるICカードを導入することにより、スムーズな乗り降りや乗り継ぎ割引を始めとした各種割引の実施が可能となります。

バスなどからの乗り継ぎイメージ



自転車からの乗り継ぎイメージ



自動車からの乗り継ぎイメージ



ICカードの利用イメージ



☎LRT整備推進室 (632)2304、交通政策課 (632)2134

◎バス車内事故防止キャンペーン実施中 走行中に座席を離れると、転倒などで思わぬけがをする場合があります。降りる際には、バスが停留所に着いて完全に停止してから座席を離れてください。また、バスは、やむを得ず急ブレーキをかける場合があります。ご利用の際は、つり革や手すりなどにしっかりつかまってください。☎交通政策課 (632)2133